

講義コード	14C0113700	授業形態	講義	事前登録の有無	あり	担当教員		開講期	
科目名	進化生物学の世界					青木 重幸		第2期	
履修前条件				備考					
授業の目的	進化論的な観点から生物を捉える。いわゆる「利己的遺伝子」論を中心に据え、オスとメスの配偶行動の違い、進化的に安定な戦略 (ESS)、性比の進化、互恵的利他行動と囚人のジレンマゲーム、血縁選択説、親子のコンフリクト、ミームなどの考え方を紹介する。								
到達目標	有性生殖生物の集団全体ないし種は、自然選択によっては最適化されないということ、利他行動が進化するしくみを把握するためには、生物個体のレベルから一段下位の遺伝子のレベルへ視点を移す必要があるということを理解する。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	講義で理解できなかった点や、さらに知りたい点について、下に挙げた指定図書や参考書を読んで、あるいはインターネット上での検索などをおして、十分復習すること。 上記に示した授業外の学修は、60時間を目安に行うこと。								
授業計画	【第1回】社会生物学とは 【第2回】同種の殺しあい 【第3回】オスの配偶行動：精子競争 【第4回】メスの配偶行動：オス選び 【第5回】代替戦略、性の役割の逆転 【第6回】進化的に安定な戦略（その1） 【第7回】進化的に安定な戦略（その2） 【第8回】性比の進化（その1） 【第9回】性比の進化（その2） 【第10回】互恵的利他行動と囚人のジレンマ 【第11回】互恵的利他行動と「反復囚人のジレンマ」ゲーム 【第12回】社会性昆虫と血縁選択説 【第13回】親子の争いと利己的遺伝子論、ミーム 【第14回】補足：最近の話題から 【第15回】まとめ								
成績評価の方法	学期末試験の結果により評価する。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書	『利己的な遺伝子』R. ドーキンス（紀伊国屋書店）2006								
参考書	『生物の社会進化』R. トリヴァース（産業図書）1991、『雄と雌の数をめぐる不思議』長谷川真理子（中公文庫）2001、『社会生物学の勝利』J. オルコック（翔泳社）2004、『人間の本性を考える』S. ピンカー（NHK ブックス）2004、『クジャクの雄はなぜ美しい？』長谷川真理子（紀伊国屋書店）2005、『マザー・ネイチャー』S. B. フルディ（早川書房）2005、『つきあい方の科学』R. アクセルロッド（ミネルヴァ書房）1998、『生き物の進化ゲーム』酒井聡樹、他（共立出版）2012、『やわらかな遺伝子』マット・リドレー（紀伊国屋書店）2004								
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受付けます。								
その他									